

2012年 山波言太郎の軌跡

当日のプログラムより

第1部 リラ自然音楽コンサート

- 1.私のケンタッキーホーム
- 2.埴生の宿
- 3.舞「白水仙の歌」
- 4.舞「雨の歌」
- 5.種山ヶ原
- 6.舞「流水」
- 7.平和の名前を呼ぼう
- 8.春はかえる
- 9.歌と舞「ボルテ・チノ(蒼き狼)桜の思い出」
- 10.舞・吟唱「義経・静の三段がえし」
- 11.歌と舞「義経・静の三段がえし」
- 12.皆で歌いましょう「故郷」

第2部 警告詩集II「アオミサスロキシン」抄



熱気溢れる満席となった会場



2012年10月12日 郡山市公演

(大成地域公民館)

私の詩の書き方は、不意に吹いてくる風を、言葉で書き止めるという書き方なのです。(...)
私は卑しい召使にすぎません。これは天空でひびいた何かのひびきです。

「著者の声」

3・11以後の今、被災した現地に立つこと、被災した方々のもとへ行くこと、2012年10月12日朝、91歳の山波言太郎は、退院後の不安定な体調をかかえて福島へ発つた。12日郡山市、13日いわき市で、自作詩の朗読をするためだ。山波はリラ自然音楽コンサートと共に、自作の蛙の予言詩『警告詩集II アオミサスロキシン』の朗読公演をおこなう。

実は13日はいわき市ではなく、川内村での公演を予定していた。ところが、天皇陛下の川内村のご訪問と日時が重なった為出来なくなり、急遽いわき市になった。本当に幸いなことに、蛙の詩人草野心平（彼は宮沢賢治を世に出した詩人でもある）、その心平のいわき市立草野心平記念文学館が共催してくれることになり実現したのだった。これも蛙と宮沢賢治のおかげか。

なぜフクシマに――勿論、被災した方々への癒しの為復興のため。だがそれだけではない、フクシマに癒しのクサビを打てばフクシマから日本が変わる、世界が変わる。これまでの実践から、山波は確信を持っている。だから芸術革命をする、決死で。





ありつけのイスが運ばれ満席となった



客席のむこうは絶景が
心平にちなんだカエル



舞台で朗読する山波言太郎

地球が動く、癒しが発動する『アオミサスロキシン』

さて、私の詩がもし予言詩ならば、リルケの言葉に従うと、私は偉大なのだろうか？ と、とんでもない、ほんのたどたどしい詩の書き手であると、自認している。但し、「癒さない芸術は、芸術ではない」と確信している。癒し（人の魂＝精神の進化、万物の浄化）逆行するいわば芸術が、お金と名声を得て巷に氾濫していいだろうか。私は問う「戦争をする（野獸のような）人類社会に、貴方の詩は貴方の芸術は、何らかの進化・浄化の寄与をしているだろうか」、自戒のためにも何度も問う。

『警告詩集II アオミサスロキシン』あとがきより
桑原啓善（ペンネーム 山波言太郎）

『警告詩集II アオミサスロキシン』

桑原啓善 作 (でくのぼう出版 発行)



が30年前書かれた不可解な詩
が、新たなナレーションがつ
いて、現在の地球を予言する
詩となり立ちあらわれた。
この詩集まるごと読めば
1時間の朗読公演となる

『警告詩集II アオミサスロキシン抄』

桑原啓善 作



「抄本」は福島県で公演するため、ナレーションを作り変えて発刊された。
(600部限定発売し、発売直後売り切れる)
抄本は30分間の朗読公演となる



2012年10月13日 いわき市公演

(いわき市立草野心平記念文学館)